

2017年10月23日

アウディ ジャパン株式会社
プレス問い合わせ 03-5475-6309
<https://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120-598106
アウディ コミュニケーションセンター

新型 Audi A8：ラグジュアリークラスの未来

—Tokyo Motor Show 2017／参考出展車—



アウディは新型 Audi A8 を通じて、ラグジュアリークラスの未来を提示しようとしています。第4世代に進化したこのアウディのフラッグシップセダンは、新しいデザイン言語、タッチスクリーンを多用した革新的な操作方式、体系的電動化が進められたドライブシステムなどにより、「Vorsprung durch Technik」(技術による先進)の理念を反映した、アウディテクノロジーの新たな金字塔といえるクルマに仕上がっています。また新型 Audi A8 には、生産モデルとしては世界初の「レベル3」の高度な自動運転システムが開発されており、2018年以降一部の市場から徐々に、パーキングパイロット、ガレージパイロット、トラフィックジャムパイロットといった先進的な自動/自律運転機能を、お客様に提供していく方針です。



*写真は欧州仕様車です。

スタイリッシュラグジュアリーサルーンの老舗：エクステリアデザイン

独自のスタイルを確立した新型 Audi A8 は、アウディデザインの新しい時代の幕開けを告げるクルマです。幅広い、直立したシングルフレームグリルが備わったフロントエンドと、流麗にして筋骨逞しいボディデザインは、アウディブランドのコアバリューであるスポーティエレガンス、都会的洗練、先進性といったものを象徴しています。数年前にスタディモデルの Audi prologue によって予告されたスタイルが、生産モデルに昇華された新型 Audi A8 は、どこにあっても力強い存在感を放ち、その点は、全長 5.17m の標準仕様も、13cm ホイールベースが長い Audi A8 L も共通しています。



アウディブランドは今日、スポーツ性のアピール、軽量設計、quattro フルタイム 4WD システムなどにより世界的な名声を確立していますが、新型 Audi A8 のデザインも、そうしたバリューを完全に反映したものになっています。バランスのいいプロポーションは、4 つのホイールに同じだけの比重を置いており、ホイールアーチ上の力感溢れる造形によって、ビジュアル面でも quattro ドライブが強調されています。サイドビューでも、直立したフロントエンドとなだらかに傾斜したリヤエンドの組み合わせで視覚的インパクトを演出。フロントにアウディレーザー照明を用いた HD マトリクス LED ヘッドライト、リヤに OLED テクノロジーを用いたテールライトと LED ライトスリップを採用した新型 Audi A8 は、昼だけでなく夜間でも、独自のアイデンティティを主張します。また、それらの照明システムにより、ドライバーがクルマに近づいたり離れたりする度に、ダイナミックなライトの動きによるユニークな光のプレゼンテーションが展開されます。

ラグジュアリーなラウンジ：インテリア

新型 Audi A8 のデザインのメインテーマは「フリーダム＝自由」です。このクルマは、広くて贅沢なラウンジにも似た印象を放っているのは、そうした理由からでもあります。従来型の Audi A8 と比較すると、標準、ロングバージョンともに、室内長は 32mm 大きくなりました。装備とマテリアルの選択肢は非常に広範囲になっており、シートのパーフォレーション（通気孔加工）からエアイベントの電動開閉シャッターといった細部に至るまで、エクスクルーシブなクオリティが追求されています。



新型 Audi A8 のなかでも特別な格式が与えられた着座スペースが、Audi A8 L の後席右側にオプション設定されたリラクゼーションシートです。これには、4 つの異なるアジャストメントとフットレストが選択できる仕組みになっています。このシートの乗員は、フロント助手席のシートバックの背に搭載された、多様なセッティングが可能なユニットに足を乗せて、温めたりマッサージしたりすることができます。ヘッドレストにも快適性を特に重視した新しいデザインが採用されています。後席の乗員はまた、専用の独立した操作ユニットを使って、アンビエントライティングや新設定の HD マトリクスリーディングライト、シートマッサージなどをコントロールしたり、プライベートな電話をかけたりすることができます。リヤシートのセンターアームレストには、後席用のリモートコントロールユニットが設置されており、スマートフォン大の OLED ディスプレイを用いており、取り外して操作することもできます。

フィンガー操作とその反応：操作系

新型 Audi A8 のインテリアデザインでは、「省略の美学」が表現の基本になっています。全体がすっきりとした構成になっていて、真っすぐな水平のラインが整然とした印象をさらに強調しています。新型 Audi A8

のインテリアからは、従来のモデルの特徴でもあったロータリープッシュボタンやタッチパッドは姿を消しています。インストルメントパネルからも、ボタンやスイッチ類がなくなりました。ここで中心にあるのは、10.1 インチのタッチスクリーン式ディスプレイですが、これもスイッチオフしたときは完全に暗くなって、グロスブラック（光沢のある黒）の周囲のパネルのなかに溶け込んでいきます。



クルマのドアを開けると、ユーザーインターフェースがすぐさま立ち上がります。ドライバーは、大型ディスプレイに指で触れることで、インフォテインメントシステムの操作を行います。センタートンネルコンソールにある 2 番目のタッチスクリーンは、エアコンディショニングと快適機能にアクセスするためのもので、同時にここからテキストの入力も行います。そのとき、ティプトロニックの幅広いレバーの上に手首を乗せたまま、例えば、検索のための文字入力ができるなど、快適にタッチスクリーンの操作を進めることができます。2つのディスプレイのうちどちらかが稼働したときには、チャイムとクリック感で、そのことがドライバーに伝えられます。ガラス調の操作ボタンも同様の反応を示します。音と触感によるフィードバックを組み合わせて、新しい「MMI タッチレスポンス」は、非常に安全で、直感的に行えて、さらに素早い操作が可能になっています。

新型 Audi A8 はまた、乗員の言葉にもインテリジェントに反応します。ドライバーは、クルマに搭載された数多くの機能を、口語でのボイスコマンドを通じて操作することができます。目的地やメディアに関する情報は、車載のほか、外部のクラウドから、LTE の回線を通じて取得することができ、Audi connect のオンラインサービスにも、新しく道路標識の認識や緊急情報などが加わりました。これは Audi に乗る人々のスワームインテリジェンス（集合知）を活用した、革新的な Car-to-X サービスの一環です。ナビゲーションシステムも大幅に進化して、新たな機能が追加されました。それは例えば、走行したルート情報を元に、自己学習していく機能です。これにより、ルート検索の機能が、よりインテリジェントなものになりました。

そうした機能のコントロールハブの役割を果たしているのが、モジュラーインフォテインメントプラットフォームの最新バージョン、MIB 2+です。これには、アウディのパートナーである NVIDIA 社が開発した最新鋭の Tegra K1 プロセッサが組み込まれています。Tegra K1 チップはもうひとつ、アウディバーチャルコクピットにも搭載されていて、フル HD で 1,920 うひとつピクセルの高解像度を誇るデジタルインストルメントパネルのグラフィックを、自在に動かす役割を果たしています。

また、Bang & Olufsen のアドバンストサウンドシステムは、これまでにない、音響面での上下方向の奥行きを表現することに成功。今回から、リヤシートの乗員も、そうした表現を含めた魅力的な 3D サウンドを堪能できるようになりました。コンサートホールで録音されたままの音楽が展開されます。これには、アウディがフラウンホーファー研究所と共同で開発したアルゴリズムが採用されています。

世界初：条件付き自動運転機能 Audi AI トラフィックジャムパイロット

新型 Audi A8 には、生産モデルとしては世界で初めて、一定条件下での高度な自動運転機能が開発されました。Audi AI トラフィックジャムパイロットは、中央分離帯のある混雑した高速道路や自動車専用道路を 60km/h 以下の速度で走行しているとき、ドライバーに代わって運転操作を引き受けます。センターコンソールにある AI ボタンを押すことで、この機能が有効となります。

Audi AI トラフィックジャムパイロットは発進、加速、ステアリング、ブレーキの各操作に対応します。ドライバーはそうした操作を、常時見守っている必要はありません。ステアリングホイールから手を放し、その国の法律で許されていれば、TV や動画の視聴など、車載のインフォテインメントシステムなどが

提供するサブタスクを実行することができます。システムが機能の限界に達した場合には、ドライバーに、運転操作に戻るよう段階的に通達がなされます。

技術的な視点から見ても、Audi AI トラフィックジャムパイロットは革命的なテクノロジーといえます。自動運転中は常時、セントラルドライバーアシスタンスコントローラー (zFAS) が、様々なセンサーからのデータを照合、分析することで、クルマの周辺の状況を把握しています。レーダーセンサー、フロントカメラ、超音波センサーに加えて、今回生産車としては初めて、レーザーセンサーも採用されています。



Audi AI リモートパーキングパイロットと Audi AI リモートガレージパイロットは、クルマを自律的に (ドライバーなしで) 操作して、パーキングスペースもしくはガレージに導いてくれるとともに、そこからの脱出も自動操作で行うシステムです。操作の実行は、新開発の myAudi アプリを使って手持ちのスマートフォンから行います。パーキング操作を継続するには、Audi AI ボタンを押し続けなければなりません。そのとき myAudi のアプリに、車載の 360° カメラからの映像が映し出されます。操作が完了すると、ティプトロニックが自動的に P のポジションに入り、エンジンとイグニッションがスイッチオフされます。ドライバーがクルマから降りずに運転席に座ったままの場合には、センターコンソールにある AI ボタンを使って、Audi AI パーキングパイロットを作動させることも可能です。

新しい地平：サスペンション

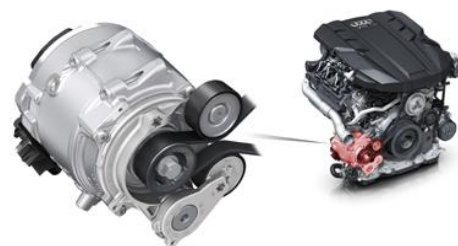
2 つめのニューテクノロジーは、「Audi AI アクティブサスペンション」です。ドライバーによる設定及び運転状況に対応して Audi AI アクティブサスペンションは、電動アクチュエーターを働かせて、個々のホイールを上げたり下げたりします。この柔軟かつ俊敏な対応力により、ラグジュアリーセダンならではのスムーズな乗り心地からスポーツカーのダイナミックなハンドリングまで、幅広い走行特性が得られるようになっています。また、側面衝突に際しては、プレセンス 360



のシステムの助けも借りて、素早い反応で衝撃を受ける側のボディを持ち上げて、乗員へのダメージを緩和します。この革新的なサスペンションシステムも、作動するためのエネルギーを 48 ボルト電源から得ており、アウディは 48 ボルトのシステムを、新型 Audi A8 のすべてのモデルに、メイン電源として初採用しています。新型 Audi A8 用に特別にリファインされたエアサスペンションとともに、Audi AI アクティブサスペンションは、かつてないドライビング体験の創出に貢献しています。

マイルドハイブリッドと e-tron：ドライブシステム

新型 Audi A8 には当初、210kW (286hp) の 3.0 TDI と 250kW (340hp) の 3.0 TFSI の 2 タイプの V6 ターボエンジンが設定されています。その後ほどなくして、2 タイプの 4ℓ V8 320kW (435hp) の 4.0 TDI と 338kW (460hp) の 4.0 TFSI が追加される予定で、さらに、エクスクルーシブなトップエンジンとして、排気量 6.0ℓ の W12 ユニットも準備されています。



5 タイプすべてのエンジンに、48 ボルトの電源システムとベルト駆動式のオルターネータースターター (BAS) が備わります。このマイルドハイブリッドテクノロジー (MHEV：マイルドハイブリッドエレクトリック)

トリックピークル) により新型 Audi A8 は、エンジンを休止させたまま、かなりの距離を無負荷で走ること（コースティング）が可能になっており、そこから再始動するときも非常にスムーズにエンジンが立ち上がります。そのように、エンジンのスタート/ストップ機能が、幅広い走行条件で働く設定になっており、エネルギー回生の量も最大 12kW と、大きな値が得られています。結果、低燃費で定評のある各エンジンの効率もさらに向上。MHEV を採用しない場合と比較して、実際の走行条件で、100km 走行あたり 0.7ℓ の燃料消費が削減されています（欧州仕様での比較）。

近い将来には、パワフルなプラグインハイブリッドドライブ（PHEV）を採用した Audi A8 L e-tron quattro も、登場する予定になっています。このモデルは、3.0 TFSI と強力な電気モーターの組み合わせにより、330kW（449hp）のシステムパワーと 700Nm のシステムトルクを実現。リチウムイオンバッテリーに蓄えられた電力だけで、約 50km のゼロエミッション走行が可能になっています。リチウムイオンバッテリーの充電には、オプション設定された新開発のデバイスである「アウディワイヤレスチャージング」を利用することができ、ガレージの床にこの受電パッドを敷くことで、非接触のまま、車載のレーザーコイルを介し、3.6kW のパワー出力で充電が行なうことができます。

新型 Audi A8 及び Audi A8 L の日本での発売は、2018 年を想定しています。

*本資料の内容は、欧州仕様車に基づくものです。